

地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた文化部活動の在り方に関する 検討会議（第 1 回）

【開催日時】 2020 年 5 月 27 日(水) 10 : 00~12 : 15

【開催場所】 Web 会議（Zoom 利用）

【参加者】 ※敬称略

（委員）

氏 名	所属・役職
揚石 明男	公益財団法人音楽文化創造事務局長
大坪 圭輔	武蔵野美術大学教職課程教授
岡田 猛	東京大学大学院教育学研究科・情報学環教授 芸術創造連携研究機構 副機構長
佐野 靖	東京藝術大学学長特命・社会連携センター長、教授
妹尾 昌俊	教育研究家、文部科学省委嘱学校業務改善アドバイザー
田村 孝子	公益社団法人全国公立文化施設協会副会長
内藤 賢一	公益社団法人全国高等学校文化連盟事務局長
野口 由美子	全国中学校文化連盟理事長
富士道 正尋	全日本中学校長会事務局次長
大和 滋	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会参与

（五十音順）

（文化庁）

氏 名	所属・役職
根来 恭子	文化庁 参事官（芸術文化担当）付 芸術教育企画官（併）学校芸術教育室長
武富 雄一郎	文化庁 参事官（芸術文化担当）付 学校芸術教育室 文化活動振興係長

（事務局）

氏 名	所属
高谷 徹	科学・安全事業本部 主席研究員
横山 宗明	科学・安全事業本部 主席研究員
沼田 雅美	科学・安全事業本部 主任研究員

菽本 沙織	科学・安全事業本部 研究員
加納 千紗都	科学・安全事業本部 研究員
太宰 結	科学・安全事業本部 研究員
鈴木 忍	科学・安全事業本部 リサーチ・アソシエイト

【議事】

- (1) 本調査研究について
- (2) 本調査研究における論点
- (3) 文化部活動の地域移行モデル案について
- (4) ヒアリング調査及び調査対象について
- (5) 委員による事例紹介

【その他】

- (1) 今後のスケジュール

【配付資料】

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2 本調査研究について
- 資料 3 本調査研究における論点
- 資料 4-1 文化部活動の地域移行モデル案の方向性
- 資料 4-2 文化部活動の地域移行モデル案
- 資料 5-1 ヒアリング調査について
- 資料 5-2 事例ヒアリング調査対象候補
- 資料 6 委員ご発表資料

参考資料 1 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

参考資料 2 「文化部活動の実態把握に関する調査」 アンケート結果

開会

【三菱総研】

- 委員の皆様おはようございます。定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。オンラインの会議でございますので、少し事務局のほうから操作につきましてご案内のほうを差し上げたいと思います。

【三菱総研】

- 皆様、今回このように基本的には映像と音声でやりとりさせていただくのですが、まれに音声が聞こえないでしたり、映像が見えなくなった、声が届かなくなったなどのトラブルが発生する可能性があります。その場合はチャットを用いて緊急時の連絡をお願いいたします。会議に入れなくなったなどチャット自体も使えな

い状況になりましたら、検討会議参加方法の資料に電話番号を記載させておりますので、ご連絡をお願いいたします。

- なお、本会議にかかる資料、速記録というものは文化庁様のホームページに掲載されます。

【三菱総研】

- それでは会議のほうを進めさせていただきたいと思えます。
- 皆様、大変にお忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。委員の先生方におかれましては、こちらの検討会議のご就任をお引き受けいただきまして、まことにありがとうございます。
- それでは本日の会議資料につきまして、ご案内を申し上げます。本日の資料は議事次第のとおりですが、オンライン会議での便宜上 PDF で1つにとりまとめさせていただいております。現在、画面上で表示をさせていただいておりますが、会議中は資料右下に付しました通しのページ番号をお示ししながら進行のほうを進めさせていただきたいと考えております。
- 資料についてのご説明は、以上でございます。資料をメールでお送りしておりますが、万が一事前にご確認いただけなかった先生方、パスワードで開けなかったという先生方がおられましたら、チャットボックスでご連絡をよろしく願いいたします。
- それでは、会議についての議事進行を進めさせていただきます。会議の開催にあたりまして、文化庁根来室長様、ご挨拶を頂戴できればと思えます。よろしく願いいたします。

【文化庁・根来室長】

- ありがとうございます。皆様おはようございます。文化庁学校芸術教育室長をしております根来と申します。本日はお忙しい中このようなお時間をいただきまして、本当にどうもありがとうございます。また本当にお忙しい中、この会議の委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。
- この会議は中央教育審議会の答申や、文化庁が一昨年とりまとめました「文化部活動のガイドライン」にのっとりまして、これから学校の部活動を地域に移行していくにあたって、どんな課題があるのか、また、その課題の解決のためにどのようなことが必要なのか、またその中で国としてどんな支援が必要なのかということをご議論いただきたいと思いますと思っております。
- また、文化部活動ガイドラインができてから約1年半が経過しまして、実際にガイドラインに沿って、活動時間を短く、また休養日をきちんととっている学校も多いところですが、いろいろなひずみや課題が出てきているとも聞いておりまして、完全に地域移行にできない事例も多くあると思っておりますので、そういった場合にどうやってその学校の中で学校の施設を活用して、今までより少しでも先生方の負担を軽くし、また生徒の皆さんにとってもよりよい部活動になるような、そんなことができないかと考えておりまして、皆様にご議論をいただきたいと思いますと思っております。
- 本来であれば、第1回からこのようなオンライン会議というのは、非常に心苦しいところがございますが、このような状況の中、また次回ももしかするとこのようなオ

ンライン会議の開催になるかもしれませんが、皆様には本当にご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

- また、今回お集まりいただいた委員の皆様には、それぞれ文化部活動の具体的な事例をお持ちの先生方にお集まりいただいておりますので、皆様からいただいた事例をもとに、また三菱総研さんのほうに集めていただく事例を参考にして、今後報告書を取りまとめていきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

委員ご挨拶

【三菱総研】

- 文化庁様ご挨拶をありがとうございました。それでは次の次第に移らせていただきます。初回ということもありますので、委員の皆様簡単に挨拶をいただきたいと思っております。お手元のページ2ページ目資料1をご覧ください。
- ご出席の委員の皆様、簡単に名簿順に当方からお名前をお呼びいたしますので、お名前、ご所属、ご専門の領域について簡単に自己紹介をいただければと思います。皆様1分弱程度でよろしく願いいたします。
- それでは揚石委員よろしく願いいたします。

【揚石委員】

- おはようございます。音楽文化創造の揚石と申します。よろしく願いいたします。有識者会議にメンバーとしてお呼びいただきましてまことにありがとうございます。私は専門家ではないんですけれども、私どもの関係者に生涯学習音楽指導員とか地域音楽コーディネーターという仲間がたくさんおりますので、そういう方々の活動などをご紹介できたらなと思ひまして参加させていただきました。いろいろ勉強させていただきたいと思ひますので、よろしく願いいたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは続きまして大坪委員お願いいたします。

【大坪委員】

- おはようございます。武蔵野美術大学で教員養成を担当しております。私の場合武蔵美で教員養成を担当する前までは、20数年間は実際に中学、高等学校の現場におりまして、最初はこれから検討していただく学校の美術部だけではなくて、主には、今回領域が違いますけれども部活動等を担当してきて、やはり先生方の現在の疲弊している状況とか、子供たちの文化に対する意識などについては、専門領域としてかなり調査をしてきた経験もございます。そういったものをベースにして、この委員会で一緒に検討していくことができればありがたいなと思っております。どうかよろしく願いいたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。続きまして岡田委員よろしく願いいたします。

【岡田委員】

- 岡田猛と申します。東京大学の教育学部で教員をしております。専門は心理学、認知科学という領域なので、ちょっと部活動のことをほとんど知らなかったんですけども、芸術活動の研究をしまして、芸術家の創作プロセスであるとか、芸術教育にかかわるような、特にミュージアムとか大学とかでの芸術教育のことについて研究しています。きょうはこういう機会をいただきまして、いろいろな部活動のことも知り合いの中高の先生たちにも話を聞いたりして、ちょっと考えたことをお話させていただきます。
- もう 1 つは、東大の芸術創造連携研究機構というのを去年立ち上げてまして、その副機構長もやっております、そこで大学と附属との連携の話をしようと思っております。よろしくお祈いします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは佐野委員よろしくお祈いします。

【佐野委員】

- 東京藝術大学の佐野です。よろしくお祈いいたします。専門は音楽教育で、今全学的な社会連携センター長をやらせていただいております、文化庁初め各自治体それから大学連携それから民間との連携のいろいろな窓口をやっております。個人的には音楽アウトリーチ活動をこの 10 年ぐらい全国展開しております、若いアーティストたちと学校の授業とか部活動のサポートをやっている関係で、今回もここに参加させていただくようになったと思ひます。よろしくお祈いいたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは妹尾委員よろしくお祈いいたします。

【妹尾委員】

- 妹尾と申します。どうぞよろしくお祈いします。僕はいち民間のコンサルタントとして、学校現場の先生方の研修とかをよくやっております。昨年は、コロナの前ですけども、150 ぐらいの学校地域を回っているいろいろな講演等をやっております。主に学校のマネジメントとか業務改善を得意にしております。そういうつながりでスポーツ庁さんと文化庁さんが部活動のガイドラインをつくるときの委員もやっておりますので、きょうはそのあたりの背景とかも少しお話できればと思ひます。どうぞ皆さんよろしくお祈いします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは田村委員よろしくお祈いいたします。

【田村委員】

- 田村でございます。私は実はもともとは放送局で音楽番組をつくっておりました。最後に解説委員をしておりました。それが 1997 年から始まったことなのですが、残念ながら日本がいかにも遅れているかという、芸術文化担当の解説委員というのはこのときが初めてなのです。今でも文化政策をとということが時に言われますが、なかなかそ

こは難しいなというのが正直なところでございまして、これを機会に今日本で、海外ではないこととございまして、日本には 2,000 以上の公立の文化施設があります。それを生かしたらもっと地域の子供たちにとって豊かな文化環境というのが生まれるのではないかと常々思っております、公文協のほうでもハンドブックなどを出しております。どうぞ皆様ご利用いただき、子どもたちにとって、文化豊かな環境になるようにということをお願いしております、参加させていただきます。よろしくお願いたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは続きまして内藤委員よろしくお願いたします。

【内藤委員】

- 内藤と申します。公益社団法人全国高等学校文化連盟の事務局長をしております。私たちの活動はといいますと、全国各都道府県に高文連がありますので、47 の高文連と 19 の部活の活動、19 の専門部といっておりますけれども、その専門部と連絡をとりながら、協力しながら文化部活動を行っております。最近では年に 1 回の高等学校総合文化祭が高知でありますけれども、その高知の総文をどうするかということが今の大事な懸案事項として、高校生の部活動をどのように保障していくか、かつ、どのように見守っていくかということが私たちの基本的な考え方なのかなと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは野口委員よろしくお願いたします。

【野口委員】

- おはようございます。野口でございます。全国中学校文化連盟理事長をしております。先ほどの高文連の方と同じように、今年は福岡大会を予定していたんですが、残念ながら中止という決断をいたしました。学校現場では本当に子供たちが頑張っておりますし、先生方も頑張っておられます。どのようにして先生方のご負担を軽減し、かつ、子供たちの文化活動をより伸ばしていけるかということで非常に悩ましいところでございます。この会議ではいろいろ教えていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは富士道委員よろしくお願いたします。

【富士道委員】

- おはようございます。全日本中学校長会事務局次長の富士道でございます。2 年前まで都内の校長を務めておまして、今現在事務局のほうで仕事をしています。長い教員生活の半分ぐらいは行政で仕事もしておりました。特に文化クラブについては、生徒、保護者プラス地域とのさまざまな関わり合いで成り立っている組織でもありますので、なかなか 1 つの流れで、簡単にいろいろな課題を解決というのは難しいと思っております。皆さんとともにいろいろな知恵を出し合いながら、一歩でも前進で

きるようなものをできていければと思っております。よろしく申し上げます。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは大和委員よろしく願いいたします。

【大和委員】

- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会の大和と申します。長年文化芸術、全国の演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能等の団体が集まっている公益社団ですけれども、文化の振興あるいは文化芸術の現状についての調査研究等に長年かかわってきました。そのような中で学校サイドの動きという今のいろいろありますけれども、学校のクラブ活動ということと並行して、先ほど田村さんからありました文化施設ということと、地域ではさまざまな形で芸術関係の教室等が行われてきているということがございますので、そういう関係がうまく融合整理されて発展に導ければいいなと思っています。そのような観点から発言をさせていただきたいと思っています。

【三菱総研】

- ありがとうございます。本日は全員の委員にご出席をいただいております。ありがとうございます。
- なお、今回はオンラインでの会議実施でございますので、引き続き事務局にて司会をさせていただきますと存じます。

(委員の皆さんの了承のもと佐野委員に委員長を受諾いただいた)

1. 議事

1.1 本調査研究について

【三菱総研】

- それではこれより議題に入らせていただきます。各議題の終わりには質疑応答の時間を設けたいと存じます。なお、ご発言される場合は、映像を On に切り替えてご発言いただければと存じます。
- それでは初めに、弊社より本調査研究についてご説明をいたします。

【三菱総研】

- それでは資料 2、3 ページと振っております事業概要をご覧ください。
- まず本事業の目的についてご説明させていただきます。学校における部活動についてですけれども、こちらは中教審のとりまとめにおきまして「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」、また「地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、環境を整えた上で、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである」とされているところでございます。

- これらを踏まえまして、今回の調査の目的としまして、このような質の高い活動の機会を確保できるように、地域移行に係る事例の収集・調査研究を行い、課題や仕組み、手法についてとりまとめ、国の支援の在り方について検討するということをごを目的にしているところでございます。
- 次に、仮説設定と調査の視点についてでございます。今回の調査に関しましては学校の教育活動そして地域での文化活動の 2 つの領域にまたがる調査であり、かつそれらに対する提言が必要というところ、また働き方改革の観点から、教員の業務負担軽減の観点も十分に配慮が必要というところがありまして、我々のほうであらかじめ課題と論点というものを、ページの右側になりますけれどもまとめさせていただきました。実際の課題と論点に関しましては後ほどご説明させていただきますが、調査にあたってはこちらの課題や論点を参照にしながら、調査項目あるいは調査対象を選定していくこととなりますので、ぜひ活発にご意見をいただければと考えているところでございます。
- 調査の全体スケジュールについて簡単に説明をさせていただきます。本調査には大きなマイルストーンが 2 つございます。1 つ目が 7 月末に中間とりまとめを行うということ、2 つ目が 11 月末に最終とりまとめを行うということになってございます。そのため、まずは 7 月に向けましては事例調査を先行させて進めさせていただきまして、事例調査をもとにモデルについて幾つかサンプルを提示できるように進めてまいりたいと考えているところでございます。
- 中間とりまとめ終了後も引き続き事例の収集とそれらのモデルのとりまとめ、あるいは各種資料のとりまとめを進めてまいります。並行して全国アンケート調査を実施しまして、アンケート調査につきましても最終とりまとめまでにまとめてまいるという計画になってございます。また、最終とりまとめの結果に関しましては、全国の教育委員会及び文化振興の部局に配布することを予定しているところでございます。
- 簡単に調査の内容について説明いたします。基礎的な調査としまして文献調査や、先行してこれまで実施してきたプレヒアリングに加えまして、アンケート調査を予定しております。アンケートは教育委員会及び自治体の文化振興の所管部署を対象とする予定でございます。こちらに関しましては、調査項目としまして文化部活動の受け皿となり得る団体・民間事業者、また児童生徒を対象とした活動、学校施設設備利用の現状・課題の把握、このようなことを調査項目として予定しているところでございます。
- 続きまして 8 ページ目でございますが、事例収集とヒアリングに関してまとめたものでございます。事例に関しましては、学校における教員等の負担を軽減し、生徒に持続的に質の高い文化活動の機会を提供するための場所、費用、指導者の確保の方策の検討に役立つようなものを収集してまいりたいと考えております。具体的には左の枠囲みで示したような 8 分類、主に運営主体の別によるもの、あるいは地域移行するための枠組みに関するようなもの、短時間での効果的な練習に関するようなもの、その他有効な事例というものを収集してまいりたいと考えているところでございます。具体的な事例に関しましては、のちほどの議題で皆様にご議論いただければ

と考えているところでございます。

- 事業概要の説明については以上です。

【三菱総研】

- 以上、事務局の説明につきまして、何かご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。こちらにつきましては、事前に当社のほうから先生方に簡潔に説明をさせていただいたところでございます。もし議題が進んだ後でも何かご質問ございましたら、随時お声がけをいただければというふうに思います。
- もしよろしければ次の議題のほうに移らせていただこうかと思っておりますが、佐野先生よろしいでしょうか。

【佐野委員長】

- 結構です。どんどんいきましょう。

【三菱総研】

- 承りました。それでは進めさせていただきたいと思えます。

1.2 本調査研究における論点

【三菱総研】

- それでは次の議題に進みます。本調査研究における論点について、事務局より説明をいたします。資料はお手元9ページをご覧ください。
- 本調査では先ほど事務局より説明をいたしました、大きく3つの柱がございます。本日先生方にお集まりいただいておりますが、有識者会議が1つ目でございます。2つ目がヒアリング調査でございます。また3つ目がアンケート調査でございます。先ほども申し上げましたが、ヒアリング調査を先行して行う予定でございます。それぞれにつきまして簡単にご説明させていただきます。
- まず大前提といたしまして、文化部活動に関する課題・現状について認識を共有した上で進めたいと考えております。今回文化部活動の課題につきましては、先ほど文化庁様からお話がありましたが、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の中で既に論点、課題がとりまとめられているところでございます。それに加えて、論点を追加したものを表1にとりまとめさせていただいております。
- こちらにつきましては、詳細の説明は控えさせていただきますけれども、例えば先ほども根来室長のほうからお話がありましたが、長時間の活動、週休日の活動による部活動への過度の傾注という課題に対しては、本調査では、例えばいわゆる「裏部活」と言われるような、活動が学校外で、もしくは学校長が把握をしていないところで部活に相当する活動が行われている現状もあると聞いております。また、部活動の時間を短縮するというあたりにましては、効果的、効率的な指導方法というものも必要になってまいります。このように課題に対して論点を設定いたしまして、本調査研究では調査のほうを進めたいと考えております。
- 続きまして次のページに進んでください。本検討会議における検討課題でございます。先ほど事務局からも申し上げましたが、先生方には8回程度の会議をご担当い

ただくこととなります。その中での会議の流れにつきまして、表 2 のほうにとりまとめさせていただいております。こちらはあくまでも現段階での予定でございますけれども、まずは 7 月中旬の中間まとめに向けて先生方にはご議論のほうをいただきたいと考えております。

- こちらにつきまして、主に中間報告に向けましては、文化部活動の地域移行モデルにつきましてご議論を集中的にいただきたいと思っております。地域モデルにつきましては、また議題を改めまして詳細にご説明のほうを差し上げたいと考えております。
- それでは続きまして、ヒアリング調査に移りたいと思います。資料の下のほうを投影してください。資料ページ数としましては、10 ページ目でございます。今回ヒアリング調査、事例調査を行うにあたりましては、2 つのことに留意してまいりたいと考えております。
- まず 1 つ目がア) 重視すべき観点でございます。今回は先ほど表 1 でまとめましたけれども、ガイドラインでも記載のありました 5 項目に対応しました工夫や取組を含んだ事例もしくはモデル構築というものを調査の中で実施してまいります。
- また、今回は自治体規模というところが非常に重要になってまいります。理由といたしましては、自治体の規模によりましては学校の教育資源が比較的乏しく、学校外の文化施設とか文化団体があまり豊富ではない地域というものがございます。そのため、町村やへき地におけるモデルというものを考慮してまいりたいというふうに考えております。
- また、活動経費につきましても、学校外の活動となるということで、例えばレッスン料という形で発生する場合もございますが、今回はこの格差是正の工夫や取組についても非常に重要と考えておりますので、この点に注意して事例収集というものをしてまいりたいと存じます。
- ページを 11 ページに進めてください。ヒアリング調査を行うにあたっての 2 つ目の論点でございます。「考慮すべき観点」としてまとめさせていただきました。先ほど申し上げましたが、地域の別というものを考慮してバランスよく調査してまいります。また、地域で部活動を担う運営主体のバランスを見たいと考えております。また、最後となりますが、部活動の種類もバランスよく収集していく必要があると考えております。
- 特に今回は中学校の部活動がメインでございますが、中学校の部活動は吹奏楽、美術部が多いというのが調査でわかっております。この中でもいわゆる吹奏楽や合唱は、「活動の強度が高い」と表現させていただきましたが、全国的なコンクールが非常に人気でございまして、こうしたものへの参加や競争によって練習が過熱しやすいという特徴があるように思います。
- 一方で、先ほど申し上げました、数は多いのですが、例えば美術部、パソコンクラブというようなものは、全国的なコンクールはありますが、練習が比較的生徒の自主性に任せられるなどの理由から、教員そして生徒への負担が高くない場合が多いというふうにも考えております。
- 3 つ目の類型といたしましては、伝統芸能のような部活があるかと思っております。こちら

につきましては部活を設定している学校が比較的少ないがために、なかなか部活動の規模も大きくならず、また指導には専門的な高度なスキルが必要となりますが、全国的に指導者が少ないという課題を抱えております。こうした部活動の種類につきましてもバランスを見ながら調査のほうを進めてまいりたいと考えております。

- 続きまして、アンケートにおける論点でございます。資料の下のほうを投影してください、アンケートにつきましては、第 3 回の会議以降で具体的な調査設計をお出ししたいと考えております。アンケート調査は教育委員会そして自治体の芸術文化振興担当部局を対象に実施予定でございます。こちらにつきましては、文化部活動の現状や地域のいわゆる文化芸術活動の状況につきまして、まずは実態を把握するというのが大きな目的でございます。
- また、もう 1 つの目的といたしましては、本調査研究で提示予定のモデルが本当に全国展開可能なのかというところを検証するための基礎的なデータというものも収集してまいりたいと考えております。
- また、こちらのアンケートは夏にかけて調査をさせていただきまして、年度の後半にかけて分析をしてまいりますが、分析方針をイ) で簡単にとりまとめさせていただいております。こちらについてはまた具体的にご説明をさせていただく機会が第 3 回以降であるかと思っておりますので、省略させていただきます。
- それでは、本調査研究における論点についてでございました。ご意見、ご質問ございましたらよろしく願いいたします。
- 妹尾先生、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

【妹尾委員】

- はい。妹尾です。資料説明どうもありがとうございます。幾つか気づいたことを口火を切らせていただきます。ほかの委員の先生もお気づきのことをお話いただければと思っております、私から 3 点ほどお話ししたいと思っております。
- 1 点目は、先ほど論点の 1 つにもありました経費の問題です。これは結構、特に文化部では重要じゃないかなと思っております。これだけにフィーチャーする必要はないですけれども、大事なかなと思っております。やはり地域移行とか、あるいは部活動の外に切り出すとなると、やはりその辺の格差といいますかお金の問題で、なかなか子供たちの機会が奪われるんじゃないかという心配はあると思っておりますから、そこは重要な話かなと思っております。学校の部活動でやっているうちは、先生方が多くの場合指導者なり顧問になられて、いわば生徒にとっては近場でお安く安全な環境でできるというメリットがあったわけです。先生方も公立の場合は残業代もかからないというような特殊な制度ですから、その是非はともかくとしても、そういった部分があったということは、踏まえておかないといけないかなと思っております。そこが 1 点目です。
- あとは 2 点目は、今回論点にするかどうかはまたあまり欲張りすぎても難しくなるかもしれませんが、やはりコロナの影響で、ウィズ コロナの時代といいますか、感染症に強い学校なり部活動というのも考えていかないと、持続可能な形にならないと思っておりますから、これは誰もが模索していて答えがない世界ではありますが、考えて

いかないといけないんじゃないかと思います。今回のようになかなか集まれないだとか、僕よりもほかの委員の方のほうがプロですけども、やはり音楽活動ですとかいくつかのものは感染リスクがあるんじゃないかと思います。子供たちの文化芸術活動の充実と感染防止をいかに両立させていくのかというのが、部活動においても、あるいは地域活動においても両方大事ですので、これはぜひ少しでも深めていくといいメッセージになるんじゃないかなと思っています。

- 3つ目は、以上のような論点も踏まえると、ヒアリング対象が教育委員会とか学校の文化芸術担当で本当にどこまでわかるかなというのがちょっとクエスチョンで、あまり調査の負担をふやすのは本意ではないんですけども、やはりどこかの具体的な活動をされている方のほうが、より実態に沿った話ができるかもしれませんので、そのあたりはバランスを見ながら考えてほしいなということです。以上です。

【三菱総研】

- 先生、ありがとうございました。富士道委員ありがとうございます。お願いします。

【富士道委員】

- 先ほどの調査の論点の中で、例えば資料でいいますと10ページにある重視すべき観点の中の1つ目ですが、「学校単位で参加する大会等の見直し」という項目がございます。大会を開催している団体の中でそのような議論というのは、どこまで進んでいるのかということと考えますと、調査の対象を、妹尾委員からもありましたけれども、調査対象としてこのような団体を含めてヒアリングをしておかないといけないのかなと思っています。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。大坪委員ありがとうございます。お願いします。

【大坪委員】

- 私も、調査の視点の1つとして、指導者の問題があると思います。これまで学校の部活の場合には、教員養成の立場からいうと、部活動指導というような大学の教員養成課程の単位ってないんですけども、割合に音楽美術の場合は教科指導と部活動の内容が密接なところにあったわけですから、一定程度のレベルは保証できていた。それからなおかつやはり教員ですから、専門領域の問題だけではなくて教育的な配慮とかも重要です。ところが、それが一旦教師という資格を持たない人の手に渡ることによって、どういった問題が起きているのか、あるいは可能性があるのかということをやはり視点として、指導者の質、レベルということも重要になってくるかなと思っていますので、そこをちょっと重視していただきたいなと思っています。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは田村委員、その後に岡田委員にご発言いただきたいと思います。
- 田村委員お願いいたします。

【田村委員】

- これは文化部活動の地域による連携ということがももとの議題でありますから仕方ないことではありますが、文化部活動というのは生徒全員ではないですよね。なぜあえて、文化環境が豊かになることが子供のコミュニケーション能力や表現力やいろいろなことを育てる、そして生きる力を育てるといことがいろいろなところに書かれていたと思いますが、そういうことを願われるならば、どうして義務教育である中学なのに、一部の文化部活動だけを対象となさった、その意味をちょっと伺いたいと思います。

【三菱総研】

- ありがとうございます。こちらのご質問のほうは文化部活動だけではなく、文化全般、義務教育と文化の関係についてということであったかと思います。
- 文化庁様いかがでしょうか。

【文化庁・根来室長】

- 田村先生、どうもありがとうございます。先生ご指摘のとおり、文化庁今は芸術教育、音楽や美術、図画工作を担当させていただいております、義務教育という観点ではそういった教科のことも含めて芸術教育全体で考えていく課題がいろいろございますが、今回につきましては、まずは文化部活動を地域に移行するにあたって、例えば学校の部活動だったらちょっと抵抗があつて入らなかった子供たちも、地域に移行されることによってまた学校の人間関係とは別の新しい人間関係が築けることもあつて、もしかすると今まで部活動に参加してこなかった生徒の皆さんも、地域で自分の好きな活動が見つけられるのであれば、参加いただけることもあるのかなと思ひまして、最終的には子供たちの文化芸術活動全般の質の向上ですとか参加機会の拡大ということを念頭に置いているんですけども、今、直近の課題としまして、部活動につきまして先ほど妹尾先生がおっしゃったように、今まで費用が少なく、かつ、場所も全て用具も確保されている状態で、学校の先生や学校の施設にかなり依存してやってきた部活動を、これから地域に移行するにあたって、お金も場所も人もいろいろなことが課題になってくるので、そういったこともご議論いただきたいと思ひて、この有識者会議を設定いたしました。
- ただ、最終的には、どんな子供でも文化芸術活動に親しめるような環境をつくりたいというのが最終目的ですので、今まで部活動に参加してこなかった生徒にも参加していただけるような、そういった機会をどんどんこの報告書をもとにふやしていきたいと思ひております。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは続きまして岡田委員、よろしくお願ひいたします。

【岡田委員】

- いくつかありますけれども、1つは部活があることでできることというのがあるということで、子供たちの中に、部活があるから学校に来ている、学校の勉強はあまり好きじゃないんだけど部活がおもしろいから学校に来ているという生徒もいたり

とかして、そこで生活指導ができるということをおっしゃっている先生もいらしたんですけれども、その生活指導的などころというのはどういう形で補うのかということと、あとは、生徒も多分部活を趣味で楽しんでいる生徒もいるんですけれども、キャリアにつながっていくとか、文化系でもそこで美術部とかで活躍して美大に進むとか、そういうふうな生徒もいますので、生徒がどういうふうなことを目指しているかによって、部活が持つ意味が変わってくるというふうな気がします。

- あと、それとちょっと関係はするんですけれども、先生のほうも部活がやりたくて教員になったという方もたくさんいらっしゃるという話が、話を聞いたときに出ていたんですけれども、そういうことで、地域に移行するときにそういう意欲があって、それが生きがいになっている先生たちがどういうふうにするのかというところが問題となるような気がしまして、全て全部移行するという形でないけれども負担を軽くするという方法がないかなというふうに思っています。

【三菱総研】

- ありがとうございます。ほかの先生方、もしご発言をご希望される場合はカメラの On もしくはチャットなどでよろしく願います。それでは議題が進みましてもご意見がありましたら、よろしく願います。

1.3 文化部活動の地域移行モデル案について

【三菱総研】

- 続きまして議題を進めさせていただきます。
- 文化部活動の地域移行モデル案につきまして、事務局よりご説明させていただきます。画面共有を資料のほうに戻してください。資料番号 12 ページでございます。
- まず文化部活動の地域移行モデルを、この会議それから本調査研究を通じて策定してまいりたいと考えております。今回、第 1 回目はこのモデル案の方向性につきまして先生方にしっかりとご議論いただければというふうに考えております。まず、こちらのモデルの作成の目的について、先生方と共有してまいりたいと考えております。
- こちらのモデルは、読み手は教育委員会及び学校長向けでございます。地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会の確保ができるように、課題や具体的な仕組み、ある程度の手法についてモデルの中でとりまとめることを目的としております。
- 続きまして、読み手にこうしたことを理解していただくために、モデルにどのような内容を盛り込むかというところを表 1 でまとめております。表 1 を映してください。
- こちらにつきましては自治体の規模ごとに今後の部活動のあり方、地域移行に係る課題、仕組み、手法に係るモデルを作成していきます。先ほど文化部活動の論点のところでも掲載をいたしました表と同じ表でございます。モデルはこちらの課題とそれに対応する論点を踏まえながら作成のほうをしてまいりたいと考えております。それでは資料を次の 13 ページに進めてください。
- モデルを作成する際に、以下のようなことに注意してまいりたいと考えております。まず、部活動の種類バランスでございます。先ほど申し上げましたが、吹奏楽、

美術部が非常に数としては多いですし、地域移行の例としては音楽活動の地域移行の例が現在非常にさかんでございます。そのため、音楽、吹奏楽を事例の収集そしてモデルの作成の際には非常に重視してまいりたいとは思いますが、それ以外の部活動につきましてもバランスをとっていきたいと考えております。

- また 2 つ目の●でございます。地域のバランスというものも考慮してまいります。例えばいわゆる町村・へき地では、学校の教員数もそれほど多くなく、また学校外にある文化資本、社会資本というものも豊富ではないケースが多いように思われます。そうした場所でのモデル構築にあたりましては、例えば ICT を活用した指導モデルですとか、ほかの地域の文化団体を定期的に招聘するようなモデルのように、工夫を加えたモデル構築が必要と考えております。
- 資料を下のほうに進めてください。また学校外の運営主体のバランスというものも考慮してまいります。といいますのも、運営主体によりまして学校の教育課程との連携方策や活動経費の在り方に違いが生じてくるということが想定されます。こうした違いにも着目してとりまとめたいと考えております。
- また運営主体とは少し異なりますが、学校連携の取組につきましても何かよい事例や工夫というものがあればモデルに組み込んでまいりたいと考えております。こちらは委員のほうでご存知の事例やアイデアがありましたら、ぜひお知らせください。
- 下から 3 つ目の●でございます。繰り返しになりますが、ガイドラインの中で提示がなされておりました 5 項目に対する工夫や取組についてきちんと説明をしていきたいというふうに考えております。また、活動経費につきまして、持続可能な活動経費の在り方や格差是正の工夫、取組につきましても、書き込んでいきたいと考えております。
- また学校外での活動の場合は、学校外に生徒が行く途中で事故にあう、そのような可能性もあります。そのため移動手段の確保、それから保護者の方が送り迎えするというような場合もありますが、そうなりますと持続可能な活動にならないケースもあるかと思えます。持続可能な地域での部活動の在り方、そういったものも検討してまいります。
- 14 ページとなります。上段のほうは今まで申し上げたことを図式的にまとめさせていただきますので、ご参考としていただければと思います。
- 下のほうに進んでください。こちらの資料をどのように作成していくかということですが、主にヒアリング調査、事例収集の結果をとりまとめてまいりたいと考えております。またそれ以外にも、自治体や教育委員会へのアンケートを踏まえまして、このモデルが実際に全国展開可能かということを考えてまいりたいと考えております。中間報告時点でどのようなレベルまで作り込んでいくかということにつきましては、文化庁や委員の先生方と協議しながら進めてまいりたいと考えております。それではページを 15 ページに進めてください。
- モデル案について具体的に申し上げます。こちらのモデルというものは 2 つの要素から構成したいと考えております。
- まず 1 つ目がモデルの基本的な事項と概要でございます。こちらにつきましては表の形でまとめさせていただきますが、このモデルがどのようなものかということ

を幾つかの項目別に作成をしております。事例は複数作成することを予定しておりますので、記載項目を統一することによって読み手に理解を深めてもらう、違いを理解してもらう、そういったことを目指したいと考えております。1つ1つにつきましては詳細の方を省かせていただきます。またのちほど具体的な記載ぶりにつきまして案をお持ちしておりますので、そちらでご確認をいただければと思います。それでは下のほうにスクロールをよろしくお願いたします。

- モデルの構成する 2 つ目の要素といたしましては、(2) 課題への対応というところを設けたいと考えております。
- 繰り返しになりますが、文化部活動の抱えている課題についてそのモデルが処方箋となり得るようなポイントがあるというふうに思われます。このモデルが特に優れている事項につきまして取り上げまして具体的詳細にとりまとめたいと考えております。
- それでは次のページ 16 ページ以降をご覧ください。モデルの作成の事例でございます。今回モデルは 2 種類お持ちしております。1 つ目が「大学等による ICT 活用を通じた遠隔地指導モデル」でございます。こちらは同じタイトルの資料が 2 種類あります。こちらの資料の 16 ページから 17 ページまで、この 2 枚は元のファイルは Word で作成しております。まずは文章のほうを Word で作成をして、その後にデザイン要素を入れました資料のほうに流し込んでいくという作成のプロセスをとりたいと考えております。
- 資料の 18 ページでございます。こちらは内容的には同じものでございますが、これを最終成果物の中に入れていきたいと考えております。理由でございますが、読み手となる教育委員会や学校の先生方に、文章が長く続く報告書形式のものをお読みいただいて理解をいただくというよりも、このようなアイコンや文字の間隔を工夫するなど、デザイン的な工夫を入れたものをお見せしたいと、そのように考えております。
- ただこのデザインを入れた状態では、文章構成が非常に難しいということがありますので、Word で作成した、文章校正が容易なフォーマットで準備をしまいたいと考えております。
- こちら中身については詳細に説明いたしません、少し具体的なイメージを先生方にお持ちいただければと思いますので、概要の部分のみ簡潔に申し上げます。今回取り上げさせていただいたのが、大学が持っている教育資源、非常にレベルの高い教員の先生方の指導スキル、それから大学教育が持っている教育プログラムなどを活用しながら、部活動の支援を行うというパターンでございます。またここに ICT によるオンライン支援を組み合わせることで、遠隔地であっても指導が可能というモデルを想定してみました。具体的な事例調査を踏まえているわけではございませんが、既に大学と教育委員会が連携をして、オンライン指導を行うような取組は複数の大学でスタートしているところです。
- ただ、概要のところには、簡潔な表面的な内容だけではなく、「ただし」以降のように、工夫するポイントということをもとめていけたらというふうに考えております。今回の ICT モデルでは、例えば全てを ICT で指導するというのではなく、初期の基

礎的な指導、大会に向けてもしくは発表会に向けての集中的な指導というものはやはり対面での指導が必要であるとか、また日常的に高度な指導者なしで自主練習を行うということも重要であるとか、そのようなことを書かせていただきました。

- またこちらのモデルを実現するためには、環境整備を事前に行っておくこと、また指導する大学教員側と指導を受ける生徒側にも ICT 利活用のスキルが必要である、そのため事前にそういったサポートも必要である、そのようなこともモデルの中には踏み込んで具体的にとりまとめていきたいというふうに考えております。
- それでは、少し資料のほうが長いので、本当であれば説明があったほうがいいかと思いますが、各自でご覧いただく形で進めさせていただきたいと思います。もう 1 つの事例について、21 ページから始まっておりますので、こちらでも少し概要部分をご説明したいと思います。
- タイトルを「NPO 法人による生徒の自主的な活動支援モデル」とまとめさせていただきました。こちらは一般社団法人 ふじのくに文教創造ネットワークの地域部活動の事例をヒアリングをさせていただきまして、こちらの資料のモデルにとりまとめさせていただきました。ただし、事例をまとめたものではなく、モデル化にあたって当社のほうで編集を加えておりますので、当社の責任でまとめさせていただいたものです。
- 先ほど大学の事例と異なりまして、例えば冒頭の適用させる自治体につきましても、ICT の場合は町村・へき地にも◎があったかと思いますが、こちらは町村・へき地には◎ではなく○という形にさせていただいております。このように同じ様式でモデルをつくっていくことによって、そのモデル間の違いというものも出てくるのではないかと考えております。
- また、真ん中のカラーの表を投影してください。先ほどの大学のモデルでも想定される工程と役割を図示しましたが、先ほどの大学の事例とは、必要とされるプロセスも大分異なってきます。こういったものの違いも考慮しながら、読み手に理解してもらえるように具体的にまとめてまいりたいというふうに考えております。こちらにつきましても、詳細な説明のほうは省略させていただきます。

【三菱総研】

- では、モデル案につきまして、質疑に入りたいと思います。先ほどのようにご発言いただきたい委員の先生方は映像を On にしていただければと思います。岡田委員の次に内藤委員、よろしくお願いいたします。

【岡田委員】

- 確認なんですけれども、このいろいろなモデルができたときに、学校の側から見ればいくつかのモデルを組み合わせてやっていくことはありということですかね。

【三菱総研】

- ありがとうございます。複数のモデルを組み合わせるということは当然出てくるかと思いますが、部活動の種類によってもそのようなこともあるかと思いますが、ご指摘いただいたことを踏まえまして、モデルを作成してまいります。ありがとうございます。

す。

- それでは内藤委員よろしく願いいたします。

【内藤委員】

- ありがとうございます。13 ページからのところ、23、24 ですか、そのあたりまで見て思ったんですけども、非常によくモデル作成時の留意点が非常によくできていると思いますが、確認の上で申し上げたいのは、やはり学校を選ぶときに学校か教育委員会かというのはあると思うんですが、都市部の学校とそれからやはりへき地、へき地でも、それから大きな学校と小さな学校がある。それからへき地の小さな学校といましたけれども、その中では統合をしている、あるいは小さな学校が集まって部活動をしている。1つの学校だけでは部活動ができなくて、いくつかの学校が集まって部活動をしているというところもあると思いますので、そこはちょっとモデルとして選んでいただきたいなというのがあります。
- それからあとは先生方が指導できないということもあって、大学とかあるいは NPO というのが出てきたんですが、もう 1 つは例えば伝統芸能というのは地域のところで、地域の指導者がその伝統文化を担っているというのがあって、それを子供たちに伝えていくというのもあったりしますので、地域の指導者及びその地方自治体の支援があるというそういう部活動の在り方もあると思いますので、そのあたりまで目を配っていただければなというふうに思います。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。考慮してまいります。学校を選ぶときにへき地の学校かどうかというのはもちろんすぐにわかりますが、複数の学校が 1 つで部活動をしているという事例がございましたら、またこの会議の中や、それから会議の後のメールなどでもお知らせいただければ幸いです。内藤委員、ありがとうございます。
- 富士道委員よろしく願いいたします。

【富士道委員】

- このモデルの中には、例えば実際の学校規模や参加している生徒数であるとか、そういうようなデータというものは入ってくるのでしょうか。

【三菱総研】

- ありがとうございます。今回この後にヒアリング調査についてご説明するときに事例シートについても説明しますが、今回はモデルのほかに事例シートもまとめてまいります。その中には学校の規模や生徒数というのもデータとして掲載して、そちらを報告書に入れていくようにしてまいりたいと思います。ご指摘ありがとうございます。
- 妹尾委員よろしく願いします。

【妹尾委員】

- 資料ありがとうございます。2 点ほど気づいたことをお話ししたいと思います。1 つは、事例集のほうかもしれませんけれども、活動している様子とか写真とかをたくさん

んもらえると、読み手にとってはやる気が高まるというかいいんじゃないかと思ったのが1点目です。

あともう1つは、そことも関係するんですけども、やはり地域移行なり何なり現状を変えるというのはそれなりに手間とか労力がかかって、やはり現状維持のほうが楽じゃないかと思われる方も多いと思うんですね。ですから、移行に向けたポイントとか、そういう大変さとか労力をどう克服したのかとか、そのあたりもヒアリングしていただけるとありがたいと思いますし、なぜそういうモデルに移行したのかという必要性のところ、そういったところも踏まえていただけないかなと思いました。

【三菱総研】

- ありがとうございます。ほかの委員いかがでしょうか。大坪委員よろしく願いいたします。

【大坪委員】

- 2つのモデルを見ていて、2つだけで地域性の高いこういった文化活動に果たして対応できるかと言われると、ちょっと心配な面もあるんですが、とりあえず2つパターンをするときに、例えばNPO法人型にしても大学型にしても、学校設置者である、公立の場合は教育委員会、私立の場合は学校法人が契約するというような想定になっているということで、ということは、例えば公立学校の場合は、教育委員会がNPO法人あるいは大学と契約するようになってくれば、そこに学校自体はどの程度かわるのか、学校があってNPO法人があるのではなくて、教育委員会とNPO法人の地域一括型なのか、そこあたりのところがちょっと見えなくいなと思ったんですけども、そのあたりはいかがですか。

【三菱総研】

- ありがとうございます。こちらの契約主体につきましては、今回のモデルはたまたま契約主体が学校設置者というパターンを用意しておりました。またNPO法人のほうも事例としましては教育委員会が登場していた事例だったので、このようにさせていただいております。ただ、モデルによっては学校が主体的にかかわっているというケースもあると思います。ありがとうございます。
- 文化庁様お願いします。

【文化庁・根来室長】

- ありがとうございます。私のほうからも1点事例としてまた皆様のご議論をぜひお願いしたいことがございます。最初のほうのご説明の中で、いわゆる「裏部活」ということも課題や現状の中に入っていたところがございますけれども、例えば今回「文化部活動ガイドライン」ができて1年半たってみた中で、例えば吹奏楽とかマーチングなど、どうしても長時間の練習をしないと一定のレベルに達しないという活動もございまして、その場合に、休業日とか活動時間のガイドラインを守っているだけではまだ物足りないと感じている生徒に向けて、言葉としては「裏部活」という言葉になってしまうかもしれないんですけども、例えば土曜日の午前中3時間は部活

として、午後からは場所を変えて、あるいは校長先生のご了解をいただいて、午後同じ学校の施設の中で活動を続けているという事例もいくつか聞いております。

- その場合に、あくまでも顧問の先生は部活としてやるのは午前中の 3 時間だけで、午後の活動についてはいちボランティアとして、あるいは地域の指導者として、例えば保護者の皆様が地域クラブという名称で施設を借りたり、あるいは学校の施設を借りたりして、別の形態としてやっているという事例も聞いております。それを「裏部活」といってガイドラインの抜け道だというふうにして、排除してしまうのではなく、むしろそういったことをやって、それでようやく子供たちのやる気が引き出せるとか、あるいは先生方の働き方改革との兼ね合いから、そういったやりたい先生にとってはそういう道もあるということも、できればこの報告書の中でご検討いただいて、ご議論いただきたいと思っております、そういったことも今後の事例の中にぜひ含めてご検討いただければと思っております。

【三菱総研】

- ありがとうございます。大和委員、お願いします。

【大和委員】

- そうですね。いくつかの観点があったかと思いますが、先ほどの先生のご議論の中で、今までできている吹奏楽とかいろいろなものが学校活動とマッチしているものが多くなっているというか、吹奏楽だと集団でやって教育性とマッチするみたいな観点があったんだろうと思いますけれども、学校教育に音楽と美術しかなかったという問題もあって、冒頭で申し上げたように、地域には例えばバレエ教室なんかは全国に 2 千ぐらいあったり、あるいは公立文化施設で少しくラブ活動をやり始めて、そこで伝統芸能をやっていたり、あと音楽とか伝統芸能の教授所というのは、かなりの数が全国に存在してきたという問題があるので、モデルの中に音楽以外のものをどう取り込むかという、学校教育と結びついてこなかった部分の観点をどう入れるかというのが 1 つあるのかなと。
- それともう 1 つ、今いいましたように、文化施設とかがあるので、単に NPO モデルという言い方よりも、何か地域が主体というような、地域で先行しているモデルというものと、学校クラブ活動の結びつきという観点からのアプローチのほうが、NPO という限り方をしちゃうとかなり狭くなるような気がするので、このモデルの考え方より、今までの学校教育に入ってこなかった分野の文化芸術活動、それと主体の問題、このモデルをきちんとつくったほうがいいのではないのでしょうか、という感じがしました。

【三菱総研】

- ありがとうございます。

1.4 ヒアリング調査及び調査対象について

【三菱総研】

- それでは委員の先生方からのご意見をいただきました。次の議題のほうに進ませて

いただきたいと思います。それでは次の議題は、ヒアリング調査及び調査対象について事務局よりご説明をいたします。

【三菱総研】

- 資料 5-1 と 5-2 を用いまして事前ヒアリングについてご説明申し上げます。23 ページが今画面に出ていますけれども、まず事前ヒアリング調査についてご覧ください。
- 先ほどもご議論いただきましたところですが、ヒアリング調査に関してはいくつか先行して調査をさせていただいたところがございます。これからヒアリングとして有識者ヒアリング及び事例のヒアリングの二部構成でさせていただきます。こちらでは事例ヒアリングについて説明をさせていただきます。
- 実施内容に関しましてですが、こちらのステップに沿って、まず文献調査で基本的な情報を把握していただいた上でヒアリング調査を実施させていただきます。結果につきましては、先ほども申し上げましたけれども、事例集の作成及び研究成果の各種とりまとめの資料に報告書に記載していくということを予定しているところがございます。
- 次のページをお願いいたします。こちらは対象（案）になっております。まず1点目有識者のヒアリングでございます。こちらに関しては文化団体あるいは地方公共団体の文化あるいは文化部活動の担当部署の方、文化施設の所有者や指定管理者の方などを対象とするものがございます。また、皆様にも事前にお話を聞かせていただきましたけれども、有識者も対象として実施することを予定しているところがございます。
- 次のページ、①から⑧までのところが先ほども申し上げました事例調査のほうの観点になっているところがございます。活動の対象の事例といたしましては、保護者や地域が運営主体となっている事例、あるいは公共の文化施設、あるいは地域のスポーツクラブであるとかカルチャーセンター等が運営主体となっている例、大学が主体となっている例、民間事業者に委託をしている例、あるいは地域移行のための枠組みについての研究が進んでいるようなもの、短時間での練習の事例などを予定しているところがございます。具体的な対象に関しては次のページをご覧ください。
- 調査項目に関しましては、表に示しているとおりでございます。事例集の項目として活用してまいりますので、活動の概要、主体や自治体規模など基本的な情報をそろえた上で、具体的な活動内容あるいは指導者、費用、場所、移動手段等、実際に地域に移行してくる際に課題になるような事項について、詳細をヒアリングしていく予定でございます。
- 今回、事前にふじのくにを含めましてプレ調査をさせていただいたところがございます。本日、ぜひヒアリングをすべきという対象に関しましては、こちらの委員会あるいは後ほどメール等でご意見をいただきまして、確定したものから随時6月7月と調査を進めてまいりたいと思っております。7月の中間とりまとめに向けまして、ある程度の数を調査したいと考えているところがございます。
- ヒアリングの結果に関しましては、いわゆるヒアリングメモに加えて事例集、モデルの作成に加えて、学校施設や設備の開放の方針、あるいは学校外の活動とした場合の

課題、指導者確保の方策、活動経費の負担の在り方、あるいは国の支援の在り方、こういったことについて包括的な観点からとりまとめていくことを予定しているところでございます。

- 29 ページ、30 ページにヒアリング候補を載せております。水色の部分が実施済みあるいは第一候補として実施を考えているもの、灰色の部分が、事例収集してみたものの今回の趣旨からはやや外れるかということで、優先度を低くしているもの、白色のところはその中間という整理になってございます。地域の種別と、運動部も併設しているのかというところであるとか、①から⑧までの観点ごとに整理をしていますので、それぞれの区別のバランスを見ながら、また部活動の内容等のバランスを見ながら、対象を決めていきたいと考えているところでございます。
- 説明は以上です。補足がありましたらお願いいたします。

【三菱総研】

- おおむね説明申し上げましたので、簡単に補足させていただきます。今回のヒアリング調査対象で具体的に皆様にご意見をいただきたい点が 2 点ございます。まずは先ほどのヒアリングの項目案につきましてご検討いただきたい、こちらは先ほど事務局から説明しましたが調査の論点を踏まえた上で、具体的にどのようなことを聞いたらいいかという点を我々のほうであらかじめ洗い出したものがございます。
- 既に委員からいくつかこういう観点を加えたらどうかというご意見をいただいておりますので、そちらに関しましてはまず再検討してみたいと思っております。このほかに、このような点を聞いたらどうかというようなポイントがございましたら、後日メールでも構いませんのでお送りいただければと存じます。
- 2 点目は、ヒアリング対象者につきまして、優先度をつけております。まず、水色の網掛けに関しては、恐らく今回の調査に最も関係のある活動事例だと想定しておりますが、実際に既にご紹介いただいた事例でございますので、まずこちらに関して優先的にヒアリングを開始したいと思っております。調査を進めるにあたりまして、もう少しこのような観点の事例を含めたほうがいい、他にも注目すべき団体など、参考になるようなよい事例がございましたら、こちらもぜひご紹介をいただきたくお願い申し上げます。
- 以上の 2 点に関しまして、後日でも全く構いませんので、ぜひ事務局のほうにご意見をいただければと存じます。
- 最後に簡単に事例集について説明いたたく存じます。28 ページをお願いいたします。こちらはヒアリング調査のアウトプットの 1 つとして、事例集を作成いたします。当初このような形で事例集を考えておりましたが、先ほどもう少し写真とかあったらどうかというご意見をいただきましたので、ビジュアル的に工夫する等も検討していきたいと考えております。
- 最後に、スケジュールについて簡単にご説明を申し上げます。27 ページに記載しておりますが、この第 1 回検討会終了後ご指摘いただいた点を反映いたしまして、対象者に対してアポイントメントを開始したいと考えております。
- 説明は以上でございます。

【三菱総研】

- それではこちらのヒアリング調査につきまして、質疑をお願いします。この後にお三方の委員からの事例発表もございますので、その後にまとめてご指摘いただくという形でも結構でございます。時間の都合上、1～2名の先生にここではご発言をいただくことにしようかと思います。
- 岡田委員よろしくお願いいたします。

【岡田委員】

- 基本的にこれは具体的にどういう実態があるかということ、場所とか費用とかそういうのはいっぱい書いてあるんですけども、どんな問題点が起きているのかということがわからないような気がして、多分そこをもっと聞くべきかなと。

【三菱総研】

- 今回は実際の活動について聞くことに主眼を置いておりますため、課題や問題に関しては、26ページの下に外部移行に関する課題や、その他のところでご意見とかを載せておりますけれども、もう少しそのあたりをフォーカスしてはどうかと考えます。

【岡田委員】

- そうですね。実態がそのままたくさんの人数を相手にしてやっているからということで、そのまま当てはめると、問題もそのまま移行されてしまうので、やはりそこら辺を深掘りする必要があるのかなと思います。

【三菱総研】

- 参考とさせていただきます。ありがとうございます。

【三菱総研】

- ありがとうございます。大坪委員お願いします。

【大坪委員】

- すみません。最初のところでも発言をさせていただいたんですが、指導者のところ、どういう方が実際に指導にあたられているのか、個人情報の問題もあるかと思えますけれども、どういう経歴とか資格とかそういったのがあれば、それもある程度調べておく必要がありますし、それから費用のところは謝礼とかいうのがその方々の収入になっているということですけども、将来的に、もしこういった組織が大きくなっていったときに職業として成立するのかなというような視点も必要になってくるかと思えますので、やはりそのあたりは綿密に調べておいて可能性を探る資料にしたほうがいいんじゃないかと思います。

【三菱総研】

- ありがとうございます。大変参考になります。検討させていただきます。

【三菱総研】

- ありがとうございます。田村委員お願いします。

【田村委員】

- 先ほど大和さんもおっしゃっていらっしゃいましたが、NPO 法人ではなく、NPO と地域の自治体の文化政策、自治体がきちんとした文化政策があり、うまくいっているところ、先ほどの例にもありましたけれども、福井なんかは典型的な例だと思います。そういうところはとても大切。
- 私がおりました静岡のグランシップなども、国よりも先進的な文化政策をとっているところですが、残念ながらいってみるとなかなか難しい、一般会計で劇団も制作者も技術者も持っているところがございます。そして演劇を発信しているところです。それでもそれが現実でございますので、各自治体がどんな文化政策を持っているかというのは非常に大きなことだと思います。NPO に頼るとか学校に頼るとかというのではなく、その辺の視点は必要ではないかと思えます。

【三菱総研】

- ありがとうございます。文献調査でまだ政策そのものについては深掘りしていない状況なので、そこは視点としてぜひ取り入れたいと思っております。ありがとうございます。

【三菱総研】

- 富士道委員よろしくお願いたします。

【富士道委員】

- 実際に事例集の中に問い合わせ先というのが載るのでしょうか。

【三菱総研】

- こちらにつきましては後ほど文化庁と相談をして参りたいと思っております。

【富士道委員】

- なぜそういう質問をしたかといいますと、結局、学校現場でいただいてもそれが活用されない、本当に資料として埋まってしまうような気がしまして、実際うちの学校でやってみようと思えば、当然いろいろなことを問い合わせしないといけないわけです。と同時に、全国から問い合わせをされたら今度は相手が困ってしまうという課題もあるわけで、それをどう整合性を図っていくかということを心配しています。

【三菱総研】

- ありがとうございます。

1.5 委員による事例紹介

【三菱総研】

- それでは次の議事次第のほうに進ませていただきます。ここからは委員による事例のご紹介に進ませていただきます。実際に取り組みされている事例について、お三方の委員からご説明をいただきます。揚石委員、岡田委員、妹尾委員の順番でお願いをいたします。それぞれ 10 分めどでお話をいただければ幸いです。

- それでは揚石委員、ご説明をよろしくお願ひいたします。資料は事務局で投影を引き続きいたします。

【揚石委員】

- 揚石です。よろしくお願ひいたします。専門家の皆さんの前で冒頭発表させていただくのは大変恐縮ですけれども、よろしくお願ひいたします。
- 本日の内容ですけれども、公益財団法人音楽文化創造、私どもですけれども、の活動紹介、学校文化部の実情、地域の支援体制の実例紹介、音楽文化創造からの提言という順番で進めさせていただきます。
- 私どもですけれども、1996年、平成8年に音楽振興法の成立に伴い財団法人として設立されました。生涯音楽学習の環境整備及び地域の音楽文化振興の促進ということをミッションにしております。いろいろな事業をやっておりますが、今回のテーマに即したところでは3つほど事業内容を説明させていただきます。
- まず人材育成事業、これは音楽指導者対象の生涯学習音楽指導員講習会というのをやっておりまして、現在指導員約2千名ほど認定しております。それから一般の音楽を通して社会貢献をしたいと思っらっしゃる方を対象にした、地域音楽コーディネーター養成講座というものをやっております。これは一昨年からスタートいたしまして、現在700名ほど認定しております。
- 地域住民による草の根活動による地域の文化振興促進ということで助成事業をやっておりますが、主に国際音楽の日記念コンサート実施音楽団体の助成、それから全国生涯学習音楽指導員協議会主催のFORUM in 国際音楽の日というところに助成をしております。
- 子供たちの体験機会の促進事業ということで、皆で協力しあう機会、伝統楽器に触れる機会、いろいろな世代の人たちと触れ合う機会というものを促進するための事業を進めております。
- 中学生の部活動事情です。これはもう皆様にいわずもがなというか恐縮なんですけれども若干触れさせていただきますと、中学生は約7割、高校生は5割が運動部に所属しています。やはりスポーツが非常に人気があるということです。それから文化部では中高生ともに女子が多いということが言えるかと思ひます。次お願ひいたします。
- 中学校部活動の種別、週1日当たりの部活動勤務時間、これは先生方の勤務時間というところなので、生徒さんたちにとってはさらに、先ほども「裏部活」と言っていましたけれども、自主練とかいろいろやっらしまして、なのでこれよりはるかに多いと思ひますが、野球部、サッカー部、バレー部などは非常に長時間練習しています。それから、これと同じように吹奏楽部も運動部と同じぐらい部活動をやっらしているということがいえるかと思ひます。その他の文化部については活動時間は比較的短いというふうに言えるかと思ひます。
- 中学生の学校生活と部活動に関する意識調査ですが、部活動に力を入れているという学生さんたちは、男子では球技系とか音楽系が多いです。女子は音楽系、武道系が多いです。部活動に余力を入っらしていない人たちは、男女ともに芸術系、その他文化系に多いのではないかというのが、一般的にですが、こういうことが

言えるかと思います。

- 学校文化部をとりまく諸問題についてちょっと触れさせていただきます。諸問題としては、働き方改革への対応ということで、先生方の長時間労働ですとかボランティア化が問題になっています。それから少子化による学校の統廃合、それから吹奏楽部、合唱部以外の芸術系文化部の停滞、大会で勝つことが部活動の主な目的になっているような状態があるかと思います。それらのかかわりで、指導者不足、練習場所の不足、体験機会の不足、自由闊達な楽しみ方の不足などが起こっているのではないかと。このような不足を補うためには、やはり地域社会でのリソースを使って支えていく仕組みが欠かせないのではないかとというふうに思っております。
- もう 1 つ違う観点から触れさせていただきますと、子供たちの発達段階によって外部からのいろいろな刺激に対していろいろな学びがあるかと思います。胎児のころですと母親の心音とか話し声、赤ちゃんですと母親の子守歌とか触れ合い、幼児期になると保育園でのお歌とかお遊戯、それから児童期になりますと社会とのかかわりができてきます。そのような各段階で豊かな愛情によって安心感、幸福感、好奇心、冒険心、行動力、意欲などが育まれます。それから幼稚園、保育園などですと、お友達との関わり合いによって他者を意識する時代になってきて、そこでお遊戯とかお歌、ハーモニーを勉強することで個性や協調性、想像力が育まれます。それから児童期ですね。社会とのかかわりが大きくふえまして、いろいろな役割を与えられるということで、責任感、達成感、自己肯定感、地元への誇り、郷土愛が芽生えるのではないかと思います。
- この下の写真を見ていただくと、これは町のお祭りのお囃子隊ですかね、お囃子を任されている子供たちだと思うんですけども、このように地域で大人たちと交わることで、たくさんの学びがあると思います。やはり小さな世界だけではなくて、大きな世界でたくさんのことを学ぶ、たくさんの人たちと接するということが非常に重要で、社会から学ぶことが非常に重要だと私どもは認識しております。
- ここから私ども実際に活動している、地域音楽コーディネーターとか、生涯学習音楽指導員の活動事例を紹介させていただきます。まず、下北 Jr ウインドオーケストラ、これは青森県むつ市ですね、5 万人ぐらいしかいない小さなところです。小学校の部活動が 2 年前廃部になったそうで、その受け皿として設立されました。公共施設、行政、地元吹奏楽団、海上自衛隊、大湊海上自衛隊ですかね、地元企業、楽器店などが協力して、設立されています。演奏法以外の学びを非常に重視しているということで、ダンスとか演劇ワークショップ、親子音楽鑑賞などもやっています。右側のクラリネットを教えている女性、この方がコーディネーターです。
- 半田ジュニアブラスバンド、これは愛知県半田市で 23 年続く地域支援ジュニアブラスバンドなんですけれども、教員 OB、楽器店が発起人となり、地元企業、行政の後押しで継続しています。OB、市民の協力により、今では海外と連携する半田市を代表する音楽団体になっています。
- いろいろ各地で我々の仲間がいろいろなことをやっているんですけども、1 つ 1 つはご紹介できないのでちょっと書きましたけれども、鹿児島県のほうの鴨池カルチャークラブ、こども吹奏楽団とか、これは楽器店とか鹿児島国際大学とか商店街の皆

さんがかかわっている。

- それから宇都宮市の城山西小学校では、文化人とか地元の人がかかわって文化人特別授業、農業体験授業などをやっております。そのほかいろいろな公共施設とか住民とかいろいろな人たちが一緒になっていろいろやっているものがたくさんあります。このようなものを見ますと、やはり地元の理解を協力を得て活動し、地元還元することで地元の誇りになっている活動、そういうものがやはり継続して拡大していけるのではないかというふうに私は思っております。
- これは鹿児島島の鴨池カルチャークラブのモデル図です。
- 文化部地域支援体制の諸問題について若干触れさせていただきます。学校文化部の活動でやはり一番人気は吹奏楽部ですし、いろいろな意味でハードルが高いのも吹奏楽部だと思いますので、吹奏楽部についてちょっと触れさせていただきます。
- 諸問題としては、楽器備品の確保・メンテナンス、それから練習場所・楽器保管場所、指導者の確保・指導法・レベルの担保、運営費・人件費・会場費・運搬費・移動費・広告宣伝費・募集などさまざまな経費がかかります。そういったものをどやって解決していくかということで、やはり地域のリソース活用は欠かせないと思います。楽器ですと旧学校備品や楽器店などのレンタル楽器、それから練習場所ですと公共施設や廃校他活用、指導者ですと音楽団体、音大他での認定制度やティーチングアーティストを活用するのが重要ではないかと思えます。それから経費のところは、原則これは継続的にやっていくためには受益者負担ということになると思いますが、社会的包摂の点からの配慮も欠かせないと思います。それから地元企業、行政との連携、リモートレッスンなどの活用ということも必要だと思います。
- このような新しい仕組みには、やはり新しい指導者が欠かせません。これが私どもとしては一番重要だと思っているんですが、求められる資質は今までとちょっと違いますね。楽しいレッスンができることが大前提です。あとコミュニケーション能力が高い、技量指導よりも芸術体験を重視する、専門知識、実技・指導方法が豊富である、学校、教員、父兄の人たちとの連携がとれる、この辺の資質が求められます。これを普及させていくためには、公に認められた認定制度が不可欠だと私どもは思っておりますので、ここをぜひ今後議論させていただきたいなと思っております。
- 左側にございますティーチング・アーティストのところですけども、アメリカとかヨーロッパはこういった資質のある人たちが社会教育とか音楽教育で非常に活躍されていますので、今回アメリカの世界的第一人者エリック・ブース氏をお招きしてセミナーを行います。当初リアルでやろうと思ったんですが、コロナでできなくなりましたので、Zoom セミナーになります。5月30日9時からございますので、もしご興味のある方はご連絡いただければ Zoom で招集させていただきますので、ご連絡ください。
- 私のほうからは以上でございます。ありがとうございました。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは続きまして岡田委員よろしくお願いたします。

【岡田委員】

- それでは今私たちの大学でやっているような試みについて少し紹介をさせていただきます。最初に今考えていること、今話を聞いたこととすごく重なっていますけれども、少し簡単にまとめた上で事例を報告します。
- 部活動は先ほどからいろいろな方がおっしゃっているような形で、文化系の部活動は比較的スポーツ系と比べると負担は軽いんだけど、吹奏楽みたいなのはスポーツ系のような負担がある、そういう格差があったりします。ただ、もう 1 つ言うと、部活動自体が生徒指導の中心的な場になっているという意見を先生たちがたくさん言っていますし、勉強は嫌いだけど部活動なら積極的に参加する生徒たちは、部活動がなくなると非常に困る。部活動指導にやりがいを感じている教員も多くて、そのために教員になったという人の話も聞きました。
- あとは地方の問題で、やはり人材がないということと、教員の人数も少なくレパートリーが限られているために、部活はへき地の場合は卓球部しかなくて文系はないとか、そういうところの話も聞いたことがあるんですけど、そういうことが起きているという現状があります。
- 教員の負担軽減のために現行制度の中でも結構できることがあるということで、部活動指導員とか外部コーチというのが今既にあるわけですけども、そういった人たちを積極的に活用ができれば、部活動指導員の人たちにたくさんお願いできると、教員に苦手な部活動はそちらに任せて、部活動を担当したい教員は自分の得意の部分でやりたいことができるということもあると思います。
- 現場の先生からすると、現在大学生は部活動指導員になれない。部活動指導員というのは技術を教えるだけではなくて、引率したりとかいろいろな責任が生じてくるわけですけども、大学生は部活動指導員になれないというのがありますけれども、例えば島根大学で 1000 時間体験学修という制度があるようで、大学生が部活動にかかわったりとか、学校に長い時間参加できるようになっているみたいですけども、そういうところで単位になる場合には、もう少し責任を持った部活動指導員的な役割を対応させることも可能ではないかということを思いました。
- アーティストの人材活用も同じことで、この人たちにも何らかの講習とかがあれば、生徒指導的なことに関してでもできるのかなという感じがしました。これは今までおっしゃったことと同じなんですけれども。
- ただ、教員の負担軽減ということだけではなくて、それとセットになることとして、課外活動学習の機会の充実とか、多様なニーズへの対応といったことを考えていく必要があって、特に前者のほうをどうするかというのは問題となると思います。
- 今 1 つの案として考えているのは、オンラインでの講演とか指導みたいなものと、それからオフラインでのスクーリングのような形の対面指導を組み合わせるということができるのではないかと。将来的には、例えば放送大学のところでのシステムを活用することもできると思います。そうすると生徒は既存の学校の部活では対応できないような活動に参加できるということ、へき地の生徒たちも参加可能であったりして、例えば全国の中学生のバーチャル部活動みたいな形で、沖縄の中学生と東京とか北海道の中学生が部活仲間になったりして、例えば写真の例でいうと、写真の撮り

方についてプロの写真家のレクチャーをオンラインで受けて、各自がつくった作品を部活のウェブサイトで発表して、お互いに感想をコメントしたり、オンラインの会話をするというのも可能かなと思います。

- あと、顔を合わせるオフ会として、年に1~2回地域ブロックごとの拠点に集まって、イベントや交流をすることも可能ではないかなということを考えています。
- それを具体的にやるという話ではなくて、我々は部活動の話聞く前から、東大附属中等学校とそれから芸術創造連携研究機構というところ、昨年の5月に連携研究機構というところが立ち上がったんですけども、そことの連携をずっと試みていまして、その試みが今のような話とマッチするということなので、それを紹介します。芸術創造連携研究機構は長いので、ACUT というふうに略してこれからお話しします。
- そこでやろうとしているのは、定期的なオンラインの講義とか指導ということと、年1回のオフラインの芸術祭の実施ということです。
- ACUT アートセンターは、昨年の5月に「アートで知性を拡張し、社会の未来をひらく」ということをキーワードにして、センターを立ち上げました。
- ここにはいろいろな学部が集まっています、人文社会系の文学部とか教育学部それから情報学環という学際的な組織だったりとか、医学系とか数理科学、工学系とか総合文化、教養学部ですね、そういうところが集まって、芸術を核にして人文科学、社会科学、自然科学というのを結びつけていこうというバーチャルな機構です。
- ここでやろうとしているのは、芸術実技の授業とかで、実際にこれは去年から駒場と本郷で20科目ぐらいの演劇とかダンスとか音楽とか美術とかの実技の授業を始めました。それは非常勤講師として芸術家の人たちをお招きしてやっています。それからアーティスト・イン・レジデンスについても、一部の部局は既にやっていたんですけども、そこを充実させようという話を今しているところですし、クリエイティブ・アーカイブとかアート・ラボとか社会連携とか共同研究などを充実させていこうということで、まだ立ち上がったばかりなので、これからいろいろなことが動いていくという形になっています。
- そこと連携して附属学校と何かできないかという中で、例えば機構のフェロー教員という人たちが10人いますので、その人たちが美術史とか表象文化論とか博物館教育とかメディアアートとか数理アート、いろいろなアートにかかわることを研究していたりする人も多いので、そういった人たちがオンラインでの講義というのを中高校生向けに行うというのは可能であって、それが将来はオンラインであれば外に向けて発信することができると思います。
- それからアーティストや芸術系大学生や院生等による芸術表現のオンライン講習会やワークショップというのも月に数回程度できないかということで、附属学校のほうではいくつかの試みを今試そうとしているところです。これはオフラインでも可能だということです。
- 先ほどのオンラインのほうのワークショップとか授業に関しては、今計画しているところの1例を挙げますと、ニューヨーク在住の国際的なダンシングユニットのEiko&Komaの尾竹永子さんにワークショップ、附属学校向けのワークショップをや

ってもらおうことになっていて、6月から7月のどこかで実施するというので今日程を調整しているところです。なかなかダンスをオンラインで教えるのはすごく難しいんですけども、今はそれをコロナの状態の中で何ができるかということをやりとりしながら組んでいるところです。

- もう1つはオフラインのほうで、芸術祭として東大附属学校芸術祭というのを企画しておりまして、オンラインで行ってきたワークショップとか講義などさまざまな取組のスクーリングのような機能を果たすということで、オンオフ問わずにさまざまな取組の集大成の発表の場にしたい。
- それから、東大附属学校をベースとして、大学とか美術家とか美術館の「芸術」が交わる「場」をつくろう。
- そして附属学校の生徒だけではなく、東大教員とか学部生、大学院生、美術館、美術家、及び近隣に限らず一般市民がかかわるようなアート・イベントにしよう。
- そして美術作品や日常生活であまり会うことがないアーティストなどの「本物」に触れることによって、より深い「芸術」への学びということの中高校生が持つことができるということを考えます。
- 具体的内容はアーティスト・イン・レジデンスとしまして、アーティストが教室を使って数週間制作活動を行って、そのときは誰でも見学できるようにするとか、協働制作でアーティストが生徒とかと一緒に協働制作を行ったりとか、あるいはアーティストや研究者によるワークショップとか講演会、美術とかダンスとか演技、さまざまなタイプの芸術家が生徒や一般市民を対象としてワークショップとか講演会を行う。あと美術展示で、毎回の芸術祭のテーマを決めて、アーティスト・イン・レジデンスの参加アーティストや招待アーティスト、東大在職中のアーティストって実はメディアアート系を中心に結構充実していらっしやるので、そういう人たちの作品なんかもそこに展示することは可能かなと思っています。
- あとは美術館とか博物館との連携も考えていまして、いろいろな形の連携を今模索しています。
- 2019年に、芸術祭というまとまりに関しては企画しているところでコロナの話が始まって、今中断をしているんですけども、個別のワークショップとして昨年度は「アートのところで奏でるミュージック」ということで、中等学校の生徒たちを対象にして6時間のワークショップを行いました。Enrico Bertelliさんという人たちが中心に行いました。
- イギリスでやっている音楽づくりのワークショップで、それと美術家のアート作品の鑑賞というのを組み合わせてやるということをやりました。
- こんなのが実施の風景で、鑑賞してそれから作品をつくります。
- ここにあるようなのが作品で、アルミのところを触ると身体が電気を通してコンピュータから音楽が流れるというのが作品です。
- ほかには、コロナで結局延期になっちゃったんですけども、踊りとメディアアートを組み合わせたようなワークショップを開催しようとしたりとか、美術科として商店街につるすフラッグというものをプレゼンして、実際に商店街に展示されたりとか、そういったことをやっています、こういったものを今までは単発的にやったん

ですけれども、芸術祭という形で今企画をしようということで動いているところで

- 問題点としては、費用とか時間をどうするかということをしているところなんですけれども、こういった形で大学がかかわっていくような1つのモデルというのはあり得るかなと思っています。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。本日の会議、大変恐縮ですが12時15分程度まで延長をさせていただければと思います。ご用事がおありの委員は途中退出いただいて結構でございます。申しわけございませんが、どうぞよろしく願いいたします。
- それでは妹尾委員、ご発表をよろしく願いいたします。

【妹尾委員】

- 妹尾です。僕のはそんなに急がないので、次回に回していただいても構わないですし、せっかくなのでお二人のプレゼンに多分皆さんコメントとかご意見があればそちらの時間のほうがいいような気が僕は個人的にはしていますけれども。どうしましょう。

【三菱総研】

- 妹尾委員お申し出ありがとうございます。今回、妹尾委員からは貴重な資料もいただいております。妹尾委員にはまた機会を設けてましてご教示いただければと思います。妹尾委員の資料も含めまして、会議全体について、まず委員長の佐野先生に少し全体的なご意見をいただければと思います。

【佐野委員長】

- 特にありませんけれども、妹尾委員からもありましたけれども、やはりウィズ コロナは避けて通れないので、今の岡田先生のご発表でもオンラインでの発信ということになりますから、今いろいろな芸術系大学も、もちろん一般大学も、実際に対面でしかできなかったことをどうやって克服していこうかということをお必死になって今探っていますので、部活にも大きな影響をやはり与えていると思いますので、そのあたりはヒアリングのときもぜひしっかりと聞いておいてください。
- きのう、たまたま本学の学長も僕も入って、エアロゾルがどのぐらい飛ぶのかを本当にきちんと科学的に証明して、実はこの楽器だったらそんなに危なくないんだよ、これだけ離れば大丈夫だよみたいなことを、東大なり順天なり慶應なりの医学部ともうちは連携していますので、そのあたりの感染学の専門家も呼んで、感染学の見地からもそういう活動が、世の中でのものすごく敵視されているほど危険ではないということをお訴えていかなければいけないと思いますので、そうした情報をまたこちらのほうの委員会にも上げさせていただきます。
- 学校の部活って、吹奏楽を例にとっても、やはり行事とすごく結びついているんですね。学校文化ともう一体になってしまっているんで、そこを今度地域のほうにどう移行させていくかというのは、何人かの委員からも、いろいろなやり方を考えていかなければいけないと思いますし、伝統芸能なんかは地域の行事、お祭り等とわかちがたく

結びついていますので、そのあたりも視野に入れていかないといけないし、かなり多様なモデル、その幾つかだけを今回はやるしかないと思いますけれども、調査のほうは情報収集はできるだけたくさん事例を集めていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それではほかの委員も全体的なお話を含めましてご発言をいただけたら、質疑などありましたらお願いいたします。今回の会議の後でも例えばメールですとかでご意見を寄せていただくことも可能でございます。
- それでは内藤委員お願いします。

【内藤委員】

- 最後に1つだけ。生徒にとって部活の意義と申しますか、部活は何のためにするかという部活の意義というのがあると思うんですが、それはちゃんと押さえてほしいなということと、それから文化庁のほうから裏部活についての話がありました。部活に一生懸命になるというか、休養日もないとか時間が長いとかいうのはあると思うんですけど、裏部活というところで、顧問だけじゃなくて、例えばOBとか保護者とか、それから外部指導者とかが入ってきて、思ったよりも時間が長く伸びてというのがあると思うんです。調査項目の中で活動の状況というのがありましたけれども、やはり表面だけ出して裏のほうは出さない学校や部活もあるかもしれないので、例えば午前中、土曜日休日に3時間部活をやっているけれども、あとは自主練、これは運動部もそうですけれども、自主練と称して生徒が午後に、部活ではないけれども自主練をやっているというのもあると思うのです。それが果たしていいかどうかというのはまたそれが問題になってくるので、休養日を設けるとか活動は2時間とか3時間と言っておきながら、実際は生徒の自主練という形で活動時間を延ばしているというのがあったりすると思うので、そこはどこか調査のときに頭の中に置いて、きちんとモデルと申しますかそういうのをやったほうがいいんじゃないかという気はします。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。岡田委員お願いします。

【岡田委員】

- 先ほど揚石先生のお話にありました、46枚目の所にあった予算とか、原則受益者負担というのがあるんですけども、多分なかなかそれはきつい厳しい影響がやっぱりあると思いますし、あと、今どこもボランティアだけではうまくいかなくて、アーティストにお願いするにしてもやはり生活がかかっていますので、そういった予算のところについて、今いろいろなところがどういうふうに予算を確保してやっているのかということと、それからあとは文化庁的に何かその問題について予算をつけるとかいうことを考えていらっしゃるかということについては、今日でなくていいんですけども、ぜひ聞かせていただければと思います。

【三菱総研】

- ありがとうございます。文化庁様からまずは回答をいただいて、その後大坪委員にご発言いただきます。文化庁様、お願いします。

【文化庁・根来室長】

- ありがとうございます。今、岡田先生からご指摘いただいた文化庁の支援につきましては、まさにこの調査研究の中で先生方のご指摘を踏まえて、またいろいろな情報収集した事例の分析を踏まえて、どういったやり方でご支援をさせていただくのがいいのかということをもさにご検討していただきたいと思っております、私どもとしてはぜひ来年度の予算要求の中でこういった地域での文化活動の取組を支援するような予算を要求していきたいと思っております、そのエビデンスとして、またどういった形でやるとそれが効果的なのかということ、この調査研究でご議論をいただいて、財務省とのいろいろな協議の中で活用していきたいと思っておりますので、できましたら来年度この調査研究を踏まえたモデル事業というのを全国で何件か募集してやっていただく、その何件かというところが何件になるかは、今回の調査研究がどれぐらい財務省から見てこれは支援すべきと思っただけになるかということによっているので、できるだけ私も件数をふやしたいと思っておりますので、ぜひ皆様のいろいろな事例を教えてください、あるいは鋭いご指摘をどうぞよろしく願います。

【三菱総研】

- ありがとうございます。それでは大坪委員よろしく願います。

【大坪委員】

- 視点として、私は学校の中で、文化振興あるいはスポーツ振興も含めて、その要素を学校が担う時代ではない、それはもう破綻してきているという認識を持っています。明治の学制改革以来、文化振興にしてもスポーツにしても学校が担ってきたわけです。それが学校スポーツであり、こういった文化芸術活動における学校の役割だったと思うんですけれども、今回は新しくなりました学習指導要領に部分的にかかわらせていただく中において、前回と比べてページ数にすれば倍ぐらいふえている。それは中身がふえたのではなくて、教育に関する仕組みなり方法論なりが大きく変わってきているわけですね。それを担う仕事が教員であって、先生方にはやはり授業を大事にしてほしいですね。
- そういう環境を我々がつくってあげなければ、やはりこれからの新しい学校教育自体が破綻をきたしてしまう可能性がある。そうなってくると、やはり学校の中で大事にしてきた部活動の文化でありますけれども、それはやはり社会がこれから担っていく要素を持っているし、これから本当の文化振興を考えた場合にも、やはり学校の先生がそれをやっているのでは先がないのではないかという認識を持っています。
- ですから私は、これからの議論の中で、そういう視点で先生方のご意見を聞いておきたいというふうに思っています。以上です。

【三菱総研】

- ありがとうございます。今回事例のご発表をいただく予定でした妹尾委員、先生方のご意見を含めましてですが、学校の働き方改革や部活動の負担軽減といった観点からいかがでしょうか。

【妹尾委員】

- そうですね。ちょっとと次回にまとめてそのあたりも含めて少し問題提起なりを共有したいと思います。ありがとうございます。

2. その他

2.1 今後のスケジュール

【三菱総研】

- ありがとうございます。それではそろそろお時間となっております。佐野委員長、今回はここで会議の議事進行全体を終えまして、必要に応じて出た委員の先生方からのご意見はまた皆様に共有させていただこうと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【佐野委員長】

- 貴重なご意見ありがとうございます。それで会議のプログラミングなんですけれども、あらかじめ2時間やるのであれば、90分とか100分ぐらいで計画しておいて2時間だと思えます。2時間の計画だとこのようになっちゃうので、オンラインはどうしても長くなっちゃうので、私もきょうこれからオンラインが午後にくつかありますので、ぜひ次回から時間を厳守でお願いいたします。そういう計画でよろしくお願いいたします。

【三菱総研】

- はい。大変失礼いたしました。それでは次回の簡単な日程につきまして、事務局のほうからご案内を差し上げて終了とさせていただきます。

【三菱総研・沼田】

- 本日はありがとうございます。次回の会議の日程なんですけれども6月24日の10時からを第1候補としているところでございます。現時点でご欠席の予定があります方は、大変申しわけありませんがこの会議終了後事務局までお声かけをいただくようお願い申し上げます。あるいはメール等でいただいても結構でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【三菱総研】

- それでは以上で本日の議題を終了いたします。のちほど次回の開催案内をお送りいたします。ウェブになるか対面になるかは現時点では未定です。
- それでは第1回検討会を閉会いたします。ご出席いただきましてありがとうございました。右下にあります退席ボタンのほうを押していただきまして退席をいただ

ればと思います。ありがとうございました。

(了)